

カレンダーもとうとう残り1枚。白老は日々冷え込みが厳しくなるのが感じられ、冬将軍の足音がすぐそこに。2021（令和3）年は皆さんにとってどんな年だったのでしょうか。今年は新型コロナウイルス感染拡大からおよそ2年。続くウイルスとの闘いは、本道も2回の緊急事態宣言を受け、経済や町民生活に大きな影響を受けました。年の後半は、町が聖火リレーの場面で関わった「東京2020オリンピック・パラリンピック」が一年遅れで開催。世界のアスリートたちが勇気と希望の光を見せてくれました。そして、晴れのウポポイ開業1年、町民待望の町立病院改築事業のスタート、新型コロナワクチンの接種が順調に進み感染者数が激減…。日常生活を取り戻しつつあるように見える師走、この一年の主な出来事を振り返りました。

（広報編集室）

## 1月

昨年に続き今年もイベントや行事、会議・会合の中止、自粛が続きました。町最大イベントの牛肉まつり（6月）も2年連続で開催中止。町は新型コロナウイルスワクチン接種対策室を設置し、ワクチン接種に必要な準備を開始しました。コロナ対策のため、多くの会議や講演会、そして相談までオンラインを活用する流れが、ICT（情報通信技術）の身近な普及となりました。町議会も令和2年の各委員会などの活動を報告する動画配信を試行実施しました。東日本大震災から10年目、地域防災活動に尽力するしらいおい防災マスター会が道社会貢献賞を受賞。改めて防災意識の大切さを訴えました。白老町もエリアとする室蘭児童相談所苦小牧分室が開設、業務を開



## オンライン活用の流れ進む

## 2月

始まりました。まちの大きな節目となる2024（令和6）年の町制施行70周年に向けた新しい町史編さん事業がスタートしました。今年には宮城県仙台市との歴史姉妹都市締結40周年でしたが、コロナ禍で目立った行事もできず、それでも同市でPRイベントを実施。戸田安彦町長も駆け付けました。7月には元陣屋資料館で提携を祝う特別展を開催。仙台藩の時代に由来を持つ伝統工芸品の数々が町民の目に触れました。



## 3月

急速に発達した低気圧の影響で、萩の里自然公園西側斜面で土砂崩れが発生。町道石山大通りが一時通行止めに。復旧工事により翌日夜には再開しました。昨

## 行政課題対応で組織機構改革を実施

## 4月

年に引き続き、コロナ対策支援の温かい寄付、寄贈が絶えることなく町や各団体などに寄せられました。白老牛銘柄推進協会は、白老牛のパックを苦小牧市立病院に贈り、感謝を示しました。星野リゾートは、町とのパートナーシップ協定に基づきポロト湖畔に建設中の温泉宿泊施設の名を、「界ポロト」に決定したと発表。開業は令和4年1月14日の予定。

## 5月

町は行政課題への的確な対応などを狙い、組織機構改革を実施。21部署を16部署に改編しました。時代に即応した行政サービスの提供を目指した町行財政改革推進計画（令和3～10年度）を策定。町税のコンビニ、クレジットカード、スマホ納付が開始され、町民の利便性向上に。町主催おもてなしガイド人材育成講座の修了者有志が、「白老の魅力」を伝え、まち活性化に「一役」と、白老おもてなしガイドセンターを発足。10月には初仕事にこぎつけました。

施設などの65歳以上の高齢者にコロナワクチン接種が順次始まる。12歳～64歳

## 東京五輪もコロナ禍で無観客の聖火採火式

## 6月

も7月中旬から接種券を送。同月には接種会場が設けられ接種が加速しました。中国企業が町のブランド「白老牛」商標マークに酷似した商標を同国で登録申請したのに対し、町が意義申し立て、棄却された問題で、決定を覆す証拠がそろえられない、と無効請求を断念。

東京2020オリンピック聖火リレー点火セレモニー「6・13 聖火が白老を駆け抜ける」。これが新型コロナウイルス感染拡大防

